

お茶に関する産業・文化・学術の総合イベント

世界お茶まつり2019

World O-CHA(Tea)Festival 2019,Shizuoka,Japan

狂言の世界に見る茶の伝統

「古くから大衆の生活に馴染むお茶」



令和元年**11月10日**(日)

開 場:13時30分/開 演:14時

会 場:グランシップ 中ホール・大地

(静岡市駿河区東静岡2-3-1)

出演者:大蔵流狂言 善竹忠重 志芸の会

観覧料:2,000円(前売券はノベルティ付き) 全席自由

チケット販売場所

- ・前売券:第7回世界お茶まつり実行委員会事務局
- ・当日券:会場受付

*前売券は10月31日(木)までにお買い求めください



第7回世界お茶まつり実行委員会事務局

静岡市駿河区南町14-1 水の森ビル3階 しずおかO-CHAプラザ内

Tel.054-202-1488 | Fax.054-202-1480Mail.wof@pref.shizuoka.lg.jp

URL.<https://www.ocha-festival.jp/2019/>

狂言の世界に見る茶の伝統

狂言は、約7百年の歴史を持つ伝統芸能ですが、お茶を題材とした演目も数多く見られます。今回の世界お茶まつりのテーマは、「つなごう0-CHA」ですが、改めて関わりを紹介することで、将

来に渡って両者をつないでいきたいとの思いから、お茶に関係する狂言を、プログラムの一つとさせていただきます。研ぎ澄まされた芸と、それに溶け込むお茶を、どうぞお楽しみください。

【あらすじ】

しみず ◆清水

太郎冠者 小林維毅
主人 岡村和彦

明日、茶会を主催する事になった主人は、太郎冠者に野中の清水へ水を汲んで来るように命じる。何とかしてサボりたい太郎冠者は鬼に襲われたふりをして帰ってくる。確かめに行く主人に先回りして、太郎冠者は鬼に変装して怖がらせようとするが…

おちやのみず ◆御茶の水

新発知 前川吉也
住持 善竹忠重
伊茶 牟田素之

明日の茶会のため、住持（住職）は新発知（しんぼち：見習いの小僧）に水を汲んでこいと命じるが、固く断られたので、代わりに門前に住む伊奈を行かせることにする。伊茶が小歌を謡いながら水を汲んでいると、いつの間にか新発知が現れ、恋心を小歌に託して謡い言い寄る。やがて二人が興じているところへ…

ちやつぼ ◆茶壺

スッパ 岡村和彦
中国ノ者 善竹忠亮
目代 善竹忠重

中国地方から茶の買い付けに来た男、帰り道に酒に酔い道で眠り込んでしまう。そこにスッパ（詐欺師）が通りかかり、背負っている茶壺を横取りしようとする。互いに自分のものだと争いを始めた二人に対し、目代（代官）はどちらが本当の持ち主かを判定するために、茶の入日記（茶を詰めた記録）を語らせる事にするが…

【出演者紹介】

—大蔵流狂言 善竹忠重 志芸の会—

「志芸の会」とは、善竹忠重氏が主宰するプロの能楽師（狂言方）の集まりで、各地で公演活動を展開しています



大蔵流狂言方志芸の会 主宰 善竹 忠重
昭和22年生まれ 神戸市在住 初世善竹忠一郎の次男 父及び祖父故善竹彌五郎に師事
昭和29年 「以呂波」にて初舞台
平成3年 重要無形文化財総合指定を受ける
平成28年度兵庫県文化功労賞受賞
現在、日本能楽会々員・能楽協会神戸支部副支部長
海外派遣公演：南米(ブラジル・ウルグアイ・ベネズエラ)、欧州(スペイン・ポルトガル)など多数参加



大蔵流狂言方 善竹 忠亮
昭和55年生まれ 神戸市在住 善竹忠重の長男 父に師事
昭和59年「以呂波」にて初舞台
平成13年「三番三」、平成21年4月「釣狐」を披く
現在、能楽協会神戸支部常議員
海外派遣公演：欧州(スペイン・ポルトガル・スイス・ドイツ・ルクセンブルグ)など多数参加
立命館大学先端総合学術研究科修了



大蔵流狂言方 岡村 和彦
昭和42年生まれ 藤枝市出身 神戸市在住
藤枝東高校卒業後関西大学入学時より善竹忠重に師事
昭和61年「附子」にて初舞台
平成14年「三番三」、平成21年11月「釣狐」を披く
海外派遣公演：欧州(スペイン・ポルトガル)に参加